

大学代表幹事として

鹿児島大学小児歯科 岩崎智憲



この10年は私にとって大きな変化がありました。ちょうど10年前、小椋 正名誉教授の後任として九州大学から山崎要一教授が赴任されました。当時、私は研修医の指導を行う歯科総合診療部に所属していたのですが、赴任2か月後に小児歯科所属に配置換えをして頂き、特に小児の咬合治療の臨床に全力を尽くさせていただきました。その間、山崎教授を筆頭に、早崎治明先生（現新潟大学教授）、齊藤一誠先生（現新潟大学准教授）から、臨床、研究、その他さまざまなことを学びました。

現在は咬合治療の臨床からヒントを得た咬合異常の原因としての気道形態、気道通気状態の研究を行っています。特に、診断と治療方法が確立されていない小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群については成長期の歯科的介入の有用性が医科からも示唆されており、その診断と治療に関する研究に“はまっている”状態です。10年前の私からは想像できないような変化が山崎教授をはじめ皆さまのお陰で私には起こったように思います。

日本小児歯科学会九州地方会もこの10年で大きな発展があったと思います。

これからの10年も本会がどのように発展するのか非常に楽しみです。